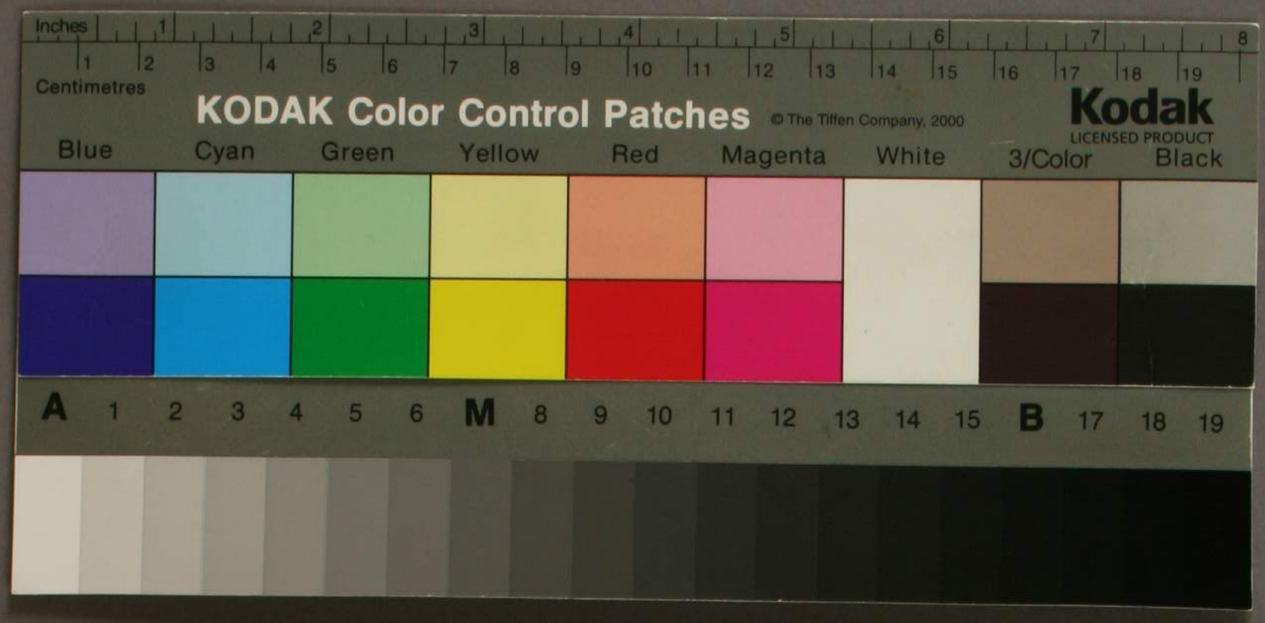

Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
A
M
B

学学文庫
文庫8
A 11
1

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5
JAPAN

畹浤

自牛矢橋抵停潮橋之小流俗呼三十間堀其河傍自北至南有八街亦称此名按同和俗以為步之義也堀穿也和俗誤用為壕塹也余茂儁僑居于其第四街私改曰畹浤畹晚玉篇曰秦孝公三十步為畹又班固魏都賦註畹三十畝也蓋度量之法有和漢今古之異同而妄不可切當然今但欲雅馴其文字竊假用為浤水分流也又水行舟處故換堀次此字

庚戌晩秋

芝蘭堂識

自牛溲橋抵潮留橋之小流俗呼曰三十間堀。間和俗誤用穿也。堀壕塹也。今私改曰畹浤。畹晚玉篇曰秦孝公三十步為畹。又班固魏都賦註畹三十畝也。蓋度量之法有和漢今古之異同而妄不可切當然今但欲雅馴其文字竊假用為浤水分流也。又水行舟處故換堀次此字。

其河傍有八街亦称此名今茂儁僑居于其第四街。按

畹浣

自牛溲橋抵潮留橋之小流俗呼曰三十間塢（穿也）閒和俗誤用

畹

俗閒（閑）為步近義也塢（粵）塹土也今私改曰畹浣（為畹）三十畝

曰秦孝公三十步令又班固魏都賦註畹（為畹）度量之法畹則有和漢今古之異同而妄不可當

今但欲使雅馴其文字寫假用為浣水分流也

又水行舟處故撓堀汝此字

其河傍有八街亦有此名今改貢僑名其第四街

畹港漫錄卷之上

水子隨筆

大槻文庫

吸毒石

菜牲簑雲小麥烏龍薯頭書云近見有吸毒石出ヽ
西洋放毒上郎吸緊不能動按出毒氣力盡則自脫ス
此石亦次烏龍膏治狀相同多修廣海豈不便捷
和蘭船上ニ俗スランガヌステーレト云フモノアリ伍乙志(カタイツツ)ト云フ人ノ
撰書ヲ讀ムニ印度國大莫臥兒(カートスーゴル)ノ都ヲデルフト云フ其地ニ

巨大ナル蛇出タリ其頭中ヨリ石ヲ得多ク其石能ク諸毒ヲ
吸ヒ神効アリ名ケテ ベイドラ デルラコブラト云フ和蘭ハ
コレヲ訳メ イシジアンセヘラシゲ ステーレト云フ イシジアンセハ
印度ノ一ステゲンハ蛇ステーレハ石ナリ前ノ語ハ印度言テ
ベイドラハ石デルラハ右ニ云フ都ノ名コブラハ蛇ノ一ナリコノ方
訛称スルスランガステーンコレナリ シカルニコノ事古来ノ妄説ヲ
実ハ創製造ノモノヽ由ヲ多イツ説ケリ 先年田村藍水翁
篤実ノ説ニテ発明セルニヤ 豈鴎所出ノ龍骨ニテ
物ヲ刻衣シタリシニ形状功用的上ノモノニ彷彿タリ後

来貢ノ和蘭人甚ニ見セタルニ甚消膽シタリトシカレハ
龍骨ニテ刻衣シタルモノニ疑ヒナシ嘗テ舌ニ粘着ス
コブラハ金毘羅ナルベシトヲ翻訳名義集ニ人面毘四雅此ヘ
勦蛟トアレバナリ

逡巡鮓

逡巡鮓ハ車林廣記ニ出ツ此方ニテハヤズシタベシト
佐ヽ木坦藏イヘリ

大黄快茶

南史姚僧垣ノ語ニ大黄快荼也快與駃通用

合華更花
木珍玩考
艾葦草葉長如中國
路頭花莖似苔草
蔵皐性柔軟云ヒ郷人取以葉織
成細簟潤アンペラハ何國ノ舒カ未詳鳥鬼ハテカルニイナロトカ
二尺長大鉢又見
屠隆起居
器服箋
曽松酔志所産
ヒライトカラモノアリコレナ
コレモノニ作リ
スルモノ多シ
此ノ内ニハカラ入
タバコ入ニコレヲ
タテまりテ使フカラテイフ
佳文章也ガ紅毛語ヲサンクツレとそゝり
又カゴセツタニテハリガノ如クニ作リタルモノニ入ル故ニ方々ヨリ渡ス

テカルハ細立タルサンクツレイナロトカ支那ナリ
コノモノタヽミ和蘭人持来ルト唐山サイクノ由ヒトリサイクモノアリテ沙糖米穀其ノ他
粗ノ物モ甚夕麁ナル席ノ如キモノニテ包ミ朱ルコレヲ長崎ニテアンダレトカノ或ハ茭草
トカ云フモノヽ事ナリ行舊トリトカ云フ未タ其ノ品ヲ見ス所ノ雑字類編

廣東新語

梹榔ニ説ノ如ク見ルヘシ又此方種蘭家
鉢植ニシテアンペラトカ云フ生物アリ其ノ品ナヤ知ガタシ

榕樹

榕樹百川学海海槎餘錄蘭亭石南方草
木狀等ニ出ツ東印度ニアルホレデヲイストカ云フ
モノアリ和蘭ヨリタルテルボームトカ云フ即コノ榕ノ形ヲ
描等ノ粘液ヲ以テ鳥鼠氏ノ萬国新語ニ出ス参ヘ
見ルヘシ我邦薩州紀州等ニ大木アリトカ云フ方言
アコノ木トカ云根ヲ煎ジ文後ニ記ス唐山福州多リ
アリトカ云

虎蜂

蝽蜂（カザメ）　蝽蜂（カザメ）　虎蜂（カザメ）　一説（トラカニ）

南川字海闕部疏ニ出ツ此方ニ云フカニすりニ也

草雲陂香

和名ヲハキ和菓ノメリロワトコレナリトヅ

荀子　淮南子説林訓

言曰學不暇者雖暇不學

仙茅　本綱（ホンカウ）　長崎本九山（ナガサキホンキウザン）　限人ス（カギリアルヒトス）

別ニ波女羅門矢多キハイガー又ラレヤモンヂン。バラモン俗名

貝東字和ハ蝦鬼（ガガメ）名龍蝦又蝽蜂ハ大蝦ノ小ナリト説ケリ又或者蝦蛄（シャコ）ハ蝦ノカマクラエビ、ヘタリ

ジイ羅布ニ（ヒルキ）ハ又（ボツクス）barbados bears（ブールト）葉、

名ナリ

ルーメ草（クラルジウム）　Curarium dendy "Cretic.

葉名くるまき蘭名ロアテルロークヒ薙寛

永初南蛮ヨリ来ル大和本草ニ見ヘタリ説甚ダ詳ナリ

救梗。一名蓁鉏ヒ呼ブ花淡紫葉ヨリ薬名ステレサキス

Culcanita（カルカニタ）Sinensis（シネンセンス）

觀日玉

本綱玉集解ニ出ツ西洋舶(ヒイラ)着ノ生鰹日ヲ
ヲ(ニ)ツゾ(ニカ)ニカシテ(ニカシテ)ヲ(ニ)ノ鐙(アブミ)アリテレナルベレゾンハ日ヲ
ガフスハ研(トギ)テスリ

一 美魚

美魚ハスルメ(スルメ)ヲ解(トカ)ス豚魚(ブタウヲ)ヲ甚(ハナハ)タ神効アリ中毒ノ
手足痛(イタミ)ヲ度(ワタ)ス痛(イタミ)ヲ度(ワタ)ス言(イヒ)ヲ寛(クツロ)ケ(ケ)ルモノコノ物ノ焙(アブリ)
食(クラ)フヲ速(スミヤカ)ニ回復(クワイフク)スルヤリ(スルヤリ)コノホ(スルメ)魚ノ手ヲ煎服(センフク)シ河豚(フグ)松魚(マガツヲ)一切
魚毒(ギョドク)ヲ消(ケス)スト大和本草(ヤマトホンザウ)ニ(ニ)ノセタリ

雞笞(ケイチ)ハ癇石(カンセキ)ノ物(モノ)ヲ名(ナ)ヅ俗(ゾク)ニ云(イフ)ヘイサラバサ(ヘイサラバサ)ノ

コレハペイ(ヘイ)ゴラベゴ(ヘイサラベゴ)ノ訛(ナマリ)ナリ西洋諸(モロ)ノ
訛(ナマリ)ヲ猴(サル)ニ出(イヅ)ルヲ雅(ミヤビ)ヲトイヒ羊(ヒツジ)ニ出(イヅ)ルモノ羊
哀(アハレ)トイヒ馬(ウマ)ニ出(イヅ)ルモノ馬黒(ウマクロ)ク狗(イヌ)ニ出(イヅ)ルモノ狗賓(イヌマロウド)

鹿(シカ)ニ出(イヅ)ル鹿黄(シカキ)ハ牛(ウシ)ノ牛黄(ゴワウ)ニ似(ニ)タリ

塔剌(タラ)不花(パナ)

羅甸語(ラテンゴ)ニ土龍(モグラ)ヲタラパトニヤ(タラパトニヤ)ト云(イフ)ヲ遜水燕談(ソンスイエンダン)ニ塔剌(タラ)
珠船(シュセン)ニ出(イヅ)ル塔剌不花(タラパナ)ノ音譯(オンヤク)トミヘタリ同書(ドウショ)ニ
眴狸(シュンリ)ハ土撥鼠(トハツソ)等(ナド)ノ別名(ベツメイ)アリ和漢(ワカン)ノ闇(クラ)ク(ク)ニヘンモノ

薰籠

薰籠ハヲセゴト乗天ノ詩ニ薰笼龍乳搭舊衣ト有リ又篝烘笼籃。爐笼籠。炉籃。衣籠。大被薰爐トモカクケリ

琴ノ操

安排歌

功名大小天已安排
喜厭休悩先聞謝早此理人知也萬事榮休
未由命。聽自然。真個好榮枯得失天已安排
畢何用強労心得一日。過一日泰来否極機巧

巧終何益萬事付之一笑前程事暗如漆

黄楝頭　物理小識　横楝樹敷荒

黄楝樹介葉如椿大者抱春采其葉味苦而甘一名回味可治痢而治霍乱功効尤奇本州網目遺此未収俗説呼黄連頭

労瘵試効方

硫黄按ホ撒摩ヲヒロセ不ホケイスト　ガヒ　硫黄ハ
各葉分等先五分ヨリ一銭ニ至ル此方屢試ス効アリ

臆来了 叫道頭上已蚊了許多肫臆
又加這一件筭肫臆上又加肫臆

醒世恒言 廿七卷

老辣一頓乱打那頭上却如酵到饅頭登時膨
起幾個大吃路

水滸

那(ナタ)頭(ヅイ)一飲(ヤム)十五箇鈞桶七上八落的
鄉音(ヒヤン)

唐子西

未之有林和靖 疎影横斜水清淺暗香浮動月黄昏

西洋曆書所載者即耶蘇(ヨソ)三字ナリ JESUS(ヂエスス)ト云フ名ノ字初中後ノ文字
音ヲ一字ツヽヌキトルナリ西洋即ヲ文例ナリ Jean(エアン)

醉菩提

道濟用手云頭上摸頭上早已跌起一個大肫ヽ

IHS 如此誌

靜攸太吉　日長始小年

睡（ネブ）

玉篇雜序曰搦管處落之睡按正字通睡癈
字彙睡也說文眡睡也廣韻皮墨也

遺稿十卷　卓祓（タカ）（ノリ）

卓祓ハ（カケナリ）唐音ナリ案此方ニテ唐音
ト云ハ（ヨウ）（ヨウ）ナリ（ヨウ）ナリ作ルモノヲ（ヨウ）（ヨウ）ト云ノ轉訛ナリ卓ヲ
料理臺ヨッポタト云ハ（チリレンゲト呼ブモノハ湯瓢ナリ）（ヨウ）ト云ノ轉訛ナリ
卓ヲ唐音ハ（ヨウ）ナリ

截癆連歌

霧ふかく松のいろをも
雪のあけぼの

百詠の日受はなつくめけもなし
雨後落葉の歌

ゆくあきのかぜにもまたぬ
もみぢかな

大通寺勧進集の末の

[illegible]

利瑪竇

利瑪竇ハ唐音ナリ Matthieu(マッテード)ナルベシ 羅
馬(ローマ)ノ「マテオ」ナリ

ベレ 龍華民ハ Diedacus(ヂーデリキ)ナリ 羅
馬(ローマ)ノ稚谷(ヤコブ)ハ Jacob(ダイロット)ナリ 艾
儒略ハ Guillaume(グイッラウメ)ナルベシ 蘭化公羽(ルカ)考ス

杜鵑

杜宇(トウ)子規(ホトトギス) 蜀魂(ショクコン) 不如歸(フジョキ)

貝原翁ノ說ヲ按スルニ十王經ニ鸕鷀(ホトトギス)ノ音ヲ都頓宵壽(トトスキヨス)トナク
イヘリ然ルニ本邦ノ人アヤマリテ杜鵑ヲ子規(ホトトギス)ト訓ス亦語リ訓ス今ホト、キス
ト訓ス亦誤リナリ今ホト、キストニアラズモノハ杜鵑ナリホト、キスト訓ス
又郭公布穀ト訓スルモコレハ別物ナリト按スルニ二月黃鳥倉庚ニウグイスノカイコリナカノホト、キスト云
哥モアレドホト、ギスト語リ訓スルヿ年旧キヿト思ハル今ハ鸕鷀ノ噪者杜鵑
ノ和名トナリ名ヅケ追正スベカラズ上古ノ我ガ國ニテハ何ノイハレヤイブカレ
漢土ニテハ杜鵑ヲ一名トナセリ和蘭ニテハクークー
名リコレモナキニアラズリッケル名ト說クリ羅甸ニテハ江戸ノ俗ハ云ベカラズ名ト
啼クト云フ仙臺ニテハ滿布ノ水声鬼鎚ノ声鳴人ノキ、
コレハ滿布ノ水声ト云フコレハ滿布ノ水声ト云フ

姑射(コヤ)

伽羅(カラ) 阿迦(アカ)嚧香(ロカウ)

伽羅ハ Calambac(カランバック)ナリ「カランバック」ノ第二種ヲ
沈(ヂン) Agallochum(アガロチム)ト云フモノアリ本綱沈香釋名ニ

阿迦瞻香トヤルモノコレナルベシ沈香以西洋本草ニ稚要多ク說ケリアゲイルホウトヽ」パラヂイス「アロエス来由ホウトヽ」ト同ジ別ニ譯文アリ

師曠禽經

吐綬雞

鷺和蘭呼ンデ「ゲホールンデ」イン泥アハセ「ハイソント」云フ又カルクーンハーン猜確類眉引頷脊群毛云吐綬雞一名真珠雞羽毛有白回點嗉藏肉綬長圃數寸許紅碧相間遇晴頂上出肉角二寸許逾後徐舒其綬坤輿外紀墨是可國有雞大如鵝羽毛華彩味最佳吻上有鼻如象可伸可縮縮僅數餘伸可五寸許恼怒則血聚于鼻正赤尾開屏如孔雀

絳色

設色淺深色間色著色

正黄 史紀書 假紫 石譜

水色 月白式 縹 納戸 紺青 紺 紺屋 鉄紺 紅 朱 紅 緋 猩々 茜 蘇芳 赤 丹 朱 赤 銅 色 海老 茶 煉瓦 色 代赭 赤 茶 栗 梅 鼠 色 利休 鼠 色 灰 色 墨 色 白 鼠 色 銀 鼠 色 鉛 色 鉄 色 藍 鉄 色 藍 色 紺 藍 色 藍 鼠 色 藍 白 式 藍 海 松 色 千 歳 緑 青 竹 色 若 竹 色 若 草 色 若 葉 色 柳 緑 色 萌 黄 色 鶸 色 鶯 色 鶯 茶 色 朽 葉 色 枯 茶 色 枯 草 色 枯 葉 色 檜 皮 色 樺 色 狐 色 狸 色 狐 茶 色 狸 茶 色 狐 狸 色 狐 狸 茶 色 狐 狸 白 色 狐 狸 灰 色 狐 狸 鼠 色 狐 狸 黒 色 狐 狸 藍 色 狐 狸 緑 色 狐 狸 紫 色 狐 狸 紅 色 狐 狸 黄

阿迦蠟香トアルモノコレナルベシ沈香ハ西洋本草ニ稚要多クノ説ケリアゲイルホウトハラヂ井ス

ホウト「アロエス」ナドヤリ別ニ譯文アリ

其絞 吐綬雞 師曠禽經

鷺和蘭呼ンデ「ゲホールンデ」イシビアハンセハイソシト云フ

又カルクーンハーン 潜確類眉引頭斉群王云吐綬雞一名真珠雞羽毛有白円點嗉藏肉綬長胴數寸許紅碧相間遍睛頂上出肉角二寸許垂後徐舒其綬 坤輿外紀墨旦之可國有雞大如鵝羽毛華彩味最佳吻上有鼻如象可伸可縮縮伸數餘伸可五寸許惱怒則血聚于鼻正赤尾開屏如孔雀

絳色

設色 深色 間色 著色

正黄 朱絳 青 深紫 石譜

學語絳染色

大糸

木紅 クレナヰ

黒頭紫 クロガシラムラサキ

海岡色 ヒハダ

羊絨色 アビロードニ

天藍 テンライロ

石青 ソラライロ

水毛色 ミヅライロ

柳綠 ヤナギミドリ

暗綠 クラミドリ

星綠 ホシビロード

鸚哥綠 インコミドリ

二紅 ニコウ

金紅 キンコウ

我黄 ガワウ

牙色 キバイロ

水絨色 ビロードニ

石藍 コキアヰ

天青 テンセイ

真青 マヒルアヰ

翠藍 ミドリアヰ

洲綠 スアヰ

莎綠 モエギ

月白 ウスアヰ

葱白 ネギシロ

豆綠 マメミドリ

深桃紅 コキモヽイロ

浅桃紅 ウスキモヽイロ

真紅 シンク

茶褐色 チャカチ

鐵色 テツイロ

蘇木紅 スワウヅメ

紅頭紫 アカガシラムラサキ

鼠色 ネズミイロ

駝色 ラクダイロ

深紫 石譜

年表

汎愛堂雑字類編抄録

天藍色（ハナイロ）　天青（コイアヲイロ）　寶藍（ハナ）　縹色（ハナダ）　淺縹色（コイハナダ）

二紅（ウスコウ）　沈香色（トノカヤ）　正銀紅（ケキイロ）

茶褐色　紺碧（ルリイロ）　深紺碧

鮮紫　錆色（サヒイロ）　艶紫（ツヤムラサキ）　艶紫

藕色（ハスノハナイロ）　醤水（ウスクレナイ）　鴉青（カラスバイロ）　閃色（カガミイロ）

淺圓朱色　石青（ソライロ）　暗黒色（ナズミイロ）　正黒色

Dis Sig ins Root of Brak
Water opened, mean often
Symafsion tots in Dr Scite
Sic Understeekt.
秋倉

山子抄書

烏黒的（クロヒロ）　〃ナイロ　藍色的　油色的（カバイロ）　緑色的（モエギイロ）　醤色的（ヒシオイロ）　灰色的（ハイイロ）

皂色的（ミツイロ）　月白色　粉紅色（ホナイロ）　淡紅色（ウスクレナイ）　桃紅色（フレイロ）　大緋　大紅色

鵝黄色（ウスガキイロ）　淡緑色（ウスモエギ）　茄花色（フレチブミ）　水墨色（ウスチブミ）　霧色（コキイロ）

深色　色名

憲法染（ケンポウ）　黒茶（アヒシブ）　藍海松染（コヤ）

紗羅染（サラサ）　薄柿　煤竹色（スヽタケ）

萱草（ソウイロ）　紅藍金（ベニウコン）　卵色　褐染（カチイロメ）　千草染　瑠璃紺　鼠色

萌黄（モエギ）　朽葉（クチバ）　媚茶（コビチャ）　濃柿　縹染（ハナダメ）　砺茶（トナチャ）　憲唐茶（キカラチャ）　千剋茶（サヘ）

山鳩紋（ヤマバトノモン）

汎愛堂雑字類編抄錄

天藍色（ハナイロ）　天青（コイアヲイロ）　寶藍（ホウラン）色　縹（ハナダ）色　淺縹（コイハナダ）色

淺縹（ウスハナダ）色　林（ホンコウ）大紅　二紅（ウスコウ）　沈香（トノカヤ）色　正銀紅（ケキイロ）

茶（チャイロ）色　褐色　茶褐色　琉璃（ルリイロ）　深琥珀

淺油綠（キヨクトウヤ）　淺油綠　猩紅（ワカムラサキ）　嬌紫　艷紫

鮮紫（タマスダイロ）　醬水　鴉青（カラスバイロ）　閃（カタメイロ）色

綠（ソライロ）色　石青　暗墨（チズミイロ）色　正墨色

山子抄書

烏黑（クロヒロ）的　藍（ハナイロ）色的　油（カバイロ）色的　綠（モエギイロ）色的　醬（ヒシホ）色的　灰（ハイイロ）色的

皂（ヨシノカ）色的　月白（ミツイロ）色　粉紅（ホナイロ）色　桃紅（フレナイロ）綠色　大紅（大緋）色

鵝黃（ウスガキイロ）色　淡綠（トクサウスモエギ）色　淡紅（ウスクレナイ）色　淡紅（ウスフレナイ）色

深色俗名

蔥白（ケンポウ）深　黑茶（アヒシル）　藍海松（ミルノヤ）　灰（ハイ）色　丁香（チヤウカウ）色

紗羅（サラサ）深　薄柿（ウスガキ）　爆竹（スヽタケ）色　千草（ツユクサ）深　瑠璃紺（コンイロ）

萱草（ソウカイロ）天色　紅（ベニウコン）紫金　卵色　檳榔（カラシ）色　丁子（チヤウジ）茶

萌黃（モエキ）　抹茶（マツチヤ）　煎茶（センチヤ）　壺廬（キカラ）茶　千利（セン）休

濃柿（コカキ）　媚茶（コビチヤ）　海老（エビ）茶　丁子（チヤウジ）茶

山鳩（ヤマバト）紋（モン）　縞（シマ）　山鳩（ヤマバト）色　樺（カバイロ）色

灰色　　鼠色
羊絨色　　金黄
鶸黄色　　浅象牙色
葱白　　鸚
鸚色　　鶸白
深雲色　　浅墨色
深桃紅　　浅墨色
緑　　正官緑

モヘギ イロ
浅桃紅　海棠紅　浅砂緑　又深萱草
鶸茶緑為正
浅柳黄　又秋葵緑　深鐵色　又桜色　正牙色　駝絨色　官緑　又白　浅官緑
或作葵茶誤　又謂萱緑
深月白　沈香色　又深田眼革者　水緑　萱黄　深古銅　浅茶合　蘭色
石青　深砂緑　鴨頭緑　浅海紅　又深銀紅　二紅　又臙紅　又火紅　正沈香
正田眼　雪白　虎黄色　元青　火紅　深血牙　薄紅色
浅香黄　後改鶸茶同　吟為多茶　深香黄　棣棠子香色為正
油緑　深官緑　浅玉扇　銀紅　又血牙
京月白　又深白　魚白　月白　深月白為正　紅古銅　又栗　青蓮　薔薇色
水紅　又檳榔色　昔流白　又檀香　又蜜蠟　深柳緑
浅鉄色　古香色　浅象牙色　又蜜雲
右降之云々品出兎通　後陣備筆

石膏
傷寒大熱之候非用此不能除蒭當用而
不用致不起者往〻有之陰症ニ附子ヲ
不用ル如ニ本草通玄曰壯
盛人生用虛人糖拌炒恐妨胃砂糖水
ニヒタシ燈心ヘ
炒頭後砂糖ヲ去
朴消
本草綱目寒鹵諸類載之曰生于鹽鹵
之地煉入盆凝結在下粗朴者為朴消
在上有芒者為芒消有芒者為馬牙硝又
曰朴消之中棟出形似麥芒号曰芒消未
經再煉故曰朴消芒消是朴消淋汁再煉
者時珍曰再以水煎化澄去滓腳入蘿蔔
同煮熟去蘿蔔傾入盆中經宿則結成為
盆消以芒消置之風日中吹去水氣則輕
白如粉即為風化消〇玄明粉亦以朴消
製成其法見于本草篤信曰朴消芒消馬
牙消盆消風化消玄明粉皆一物有製法
而變成者也右數品其分ヲ知ニ
抄出入
耳草

灰色　煙色
羊絨色　金黄（ウコン）
黯色　茜褐色（ソニヒヤ）
浅香紅（ウスコウ）　松花色（ウスガキ）
水里色（ウスアサギ）　正象牙色
正魚白

調和之惟中滿者禁用耳爾入門曰耳草
大抵脾胃氣有餘如心下滿及腹脹嘔吐
痢疾初作皆不可用下焦藥亦少用恐緩
不能達凡藥宜少用多用則泥膈而不思
食抑恐緩藥力而少効

黃耆

細目ニ
爲良故謂綿黃者非謂其豪韌如綿也其
製法考本草用蜜炙乃炮堙水ニ浸ス乾
炙ルアリ李仲梓曰古人制商耆多用蜜
炙愚嘗以酒炙飲醫翁其達表又衛其泛滯
也若補腎及崩帶淋濁藥中須鹽水炒之
今案心腹ニ氣ノ塞ルニハ酒ニ浸シ焙ルヘシ蜜炙
浸淫滯ニハ鹽水ニ浸シ焙ルヘシ

深雪歌緑　嫩緑　深官緑　竹油緑　深沈香色　古銅色
將門色　葡萄色　深葡合　浅葡合　鸚
紺　真青　鴉青　燕尾青　暗緑　浅老虎茜
正鎮色　深官緑　油緑　竿紙色　水紙色
日白　浅萄色　翠萄　葱白　蘇木紅
正鎮色　將色　粉紅　沈香色　帯艶色
揚羽色　浅青蓮　正山服色　水白　白萄
月白色　深古銅色　油緑　一豆青　深藍紺色
真紅　水色色　油紅　將門緑　深藍色
　　油紅　將門色

六甲擁護

語ノ如ク志願ノ如ク
俗説ニ唐山名乃明
亜ヒコノ色緑ノ佳ナ
問ヒモヘバ彼ノ国
者流ノ太ク助ケラレ
明ト云ヒ簡與ノ
金剛石ノ
羅什維摩経註曰如有
壁之表所有彩色悉於是現トアルハ此ヲ云ヒ

蘭名此赤ヒヲ訛リヌ称スル耶ヤマコトナラン亜石悉乎
平賀氏物品隰ヲ詳説アリ未ダ其ヲ詳ニセズ其ノ
（欠）鳳凰（欠）部ヨリ出ス

鷹帝亜ノ地ニ在リヨンストンノ鳥獣譜ニ因テ
説ヲ出ス羅甸ニ呼テ Falco imperialis ト云フ
（欠）和蘭呼テ（欠）ト云フ先年中
川淳庵ヨレストンヲ摸シ其ノ説ニ因テ彩色
ヲ施シ樽本堂像ヲ図ス幅アリ聖代
出現ニタリト雖モ遠ク敵ヲ越ヘ民

ノ白雉ノ如クナルベシ中川氏図上ニ題シ名ヲ文ヒ如
蘭人容思東思所著禽蚊譜載雉頭數十
鳥其中有一種名鷹帝亜雉者讀其條形狀
甚奇文采可愛緬異于凡雉矣因検品氏春秋
流訣之西丹山之南有鳳鳥之卵汝民所食則
所産之地不次為異也雖按流訣則西域之地
称鷹帝亜者是赤道之下熱帯之國所生一枝
之雉而非古昔所謂鳳鳥者耶思之不已詰友人
某令效禽訣譜之図而字之次其形容態

東愚所謂施諸采色也不一秩秩依此図聊備
多識之一云爾　淳庵中川麟峯撰識

白虎通云尚質何謂也曰尚質者以為王言尚其素
近度其有無通四方之物故謂之尚也貢者
為言固固有其用物次待己成来次求其利也
行用商止曰貢以下署

程朱説

古文尚書論五経ノ奨蔵漢唐ノ註
疏ヲ用ユ今モ

朱子曰衮衣ハ古註ノ謂ヒセタマヲ曳シ吉野ノ先主
時獨清軒健賢始テ宋儒ノ新註ヲ用ユ是
程朱ノ学ヲ本朝ニ行ハレシ始ナリ

元服

元服ノ名目ハ賤者ノ額繋ヲ制シ尊者ノ元服ニ云
合セタリ何ソヤ漢ノ昭帝紀註師古曰元者
也冠者首之所蒙故曰元服其下没顯傳
序云上正元服是知謂冠為元服云ハ此説ヲ
次テ賤者ハ合サルヲ知ルベシ

淺黄

今ノ浅黄ト云フ多クハ文字ト異ナリ中古ノ専ラ花田ト云色ノ名イフ浅黄ナリ浅黄トハカリヤス深ノコトナリ
所謂黄色ナル故浅黄ト名ケシナリ

漠。

粗束ノ丁沙漠ノ意本州綱目胡椒益智附

二月ニ出ツ

恐

書曰必有恐其乃有濟武王銘曰恐之須
史全軀古語曰莫大之過起於須臾之不恐

古語曰恐過事ハ堪喜是可為慎徳保身之法
恐之義大乎哉

須

(セ須ク何ゾスベシト)

スベカラクトヨマ(ベカラク)ハ當ノ可ニテナシスノ字ノベシトヨマ
心覚ニナルベシトナリ

鸙 敷鳥 一名紫鳧鴴 溪鴫

此方ニ云フオシトリ也 鳧ハ此方ニ産セスオシ
トリト訓ルハ誤リ也 京人アカシラニ充ツ然ルヤ

吾中昔ヨリ吹上ノ御園ニ鳧ヲ養ヘリ禁ヘシ
ヒテアリトヤ 鸙敷鳥ヨリ小ニメ一類別称ナリ

子夜春歌

陌頭楊柳枝　已被春風吹妾心正断絶君
懐那得知

柳絮飛時花滿城　悩人春色不分明

躰詮ヒメルナリ

奉

黄山谷題畫艸菜

不可使士夫不知此味不可使天下之
民有此色

唐人詩云湯餅一盃銀線亂

湯餅（トウヒン）　和名抄　餺飥（キリムギ）　飯淘淵麵　餺飥

槻（ツキ）

江陰縣志曰槻質堅而勁多於蟲蝕人家門巻
多樹之字彙木名瓊雅曰槻（ツキ）一名欅（ケヤキ）材貝右曰槻（ツキ）一
木理閑擧（ケヤキ）槻（ツキ）一名欅（ケヤキ）一名欅（ケヤキ）一名欅（ケヤキ）一名欅（ケヤキ）
木理ヲ見テ分ケ一類別物ナリ世俗枹（ブナ）栗ヲ来ス
俗ニ多ク書ク公槻ニ作ルハ漢土ニ同シカラス
ユヘ槻ニ号ケ云フアリ梅（ウメ）山堂封内曲井荘門

苍々タリ植立甚ダ安カラテ廿ノ近傍ニ蔓衍繁茂シ
棟梁トナルベキ巨材甚タ多シ我祖先奥磐井郡
飯倉ト云フ所ニ舘ス今猶遺趾アリ故ニ近郡ニ傳フ天ニノ末
ノ頃ノ人大槻殿ト称スル絶倫ノ豪傑ニ近郡ノ徴ニ隨テ軍動
年甚ダ多シ而シテ信玄公ノ如キ英雄ノ徒ニ且亦俗ノ称ス
アリ君コレカ忠實ヲ嘉賞シテ錄ヲ増加シ且亦俗ノ称ス
ニ従テ千葉ヲ改テ姓ヲ大槻ト賜ヒ但馬守ニ
叙爵ス同藩及他藩ニモ同姓多シト雖我大槻ハ
別ナリ 葱 葱ハ

和名抄ニ和名紀ト云キノ一字ヲ名ケシ故ニ一名ヒトモジト
云フ淺葱色モ葱ノアサキ色也淺黄ト書ハ非ス
其茎ノ色リ前ノ條黄ノ條ト併セ考フヘシ

衣書血機

衣ト書キトハ血ノ付キタルニ生姜ヲスリ辞キ水ニ和シ
口中ニフクミテ洗ヘハ落ルモノナリ

又衣服ニケガレヒテオチザル酸醤ノ汁ヲフクミテハ洗ヘハオチ
ホーツキノ色ノ如ニカワクヲ洗ヒ用ヒ洗ヒハ後ノ赤小豆ノ末モ
可ナリ

底

大和本州ニヤク年ノ條ニ化ス年ノ年又同品ノ載ル
地ニ今年ノ申年ニハ底ト云ヒ和俗

一本根地ト云一切ノ夏草皆ヒロヒ又栽
レ共不禁壷盧加南瓜苦瓜茎仏
甘藷蔓リ久シク茎ハ不忘底ノ夏ノ菜麦ハ地ヲ
或ハ土ヲカケテ可栽旧ク石可栽菊ナド花茎モ
亦ヨロシ庵飛ヲ久シク開花モ八庵ヲ忘ス

中

試金石

凡ソ試金石ニ品々アリ其詳ニ載セタリ亦色ヨシ
キモノナリ天工開物ニ云ク小黒石ニ真金銀ヲ磨
テ痕ヲ験ス其石ハ出ル所ニ随テ各異ナリ試ル
法ハ真金銀ヲ以テ石ノ面ニ磨シ其痕ノ色ヲ
以テ金銀ノ高下ヲ験ス其石ハ出ル所ニ随テ各異ナリ
試ル

ホヽツキト云フハホヽト云臭氣コノンテ其葉ニツキテ今良スル
故ナリ芸香ノ如シ紅色ニシテ花アリ女兒ニ良シ合ンテ
音アルヲ厭レトス本草ニ此事ハ不載又一名ヲカヽチト
云フ日本紀神代上日大蛇眼如赤酸醬(アカカヾチ)本州ニ
蛇目圓此實和名抄ニハ蛇苺ヲ大蛇ノヤマカヾチト訓スレハ蛇苺用ル酸醬ニテ
日休天皇ノ御座頭官位始メテ一級ヲ賜ハル時ノ事
一仲哀天皇ノ御宇戊申歳時新羅王行ヲ事ヲ時言
宜新其ヲ大日

月大勢ヲ以テ周防ニ来リ御ヲ不用ル仍テ石像ヲ
加リ給ヒ洛陽(サクヤウ)ヲ花牝牛(ハナメウシ)ヲ献ル時ニ
ノ言着ヲ着ヲ着セ給フ
五ノ官位ニ三子ヲ相ノ年ヲ用ル仍テ十六階ヲ
建テ給フ故ニ次第シテ廿ノ涼ニ四ケ度上
洛シタルヲ四分ト號シ涼ト云ヒ
此君ハ名ヲ忘レ
共二日ニ蘇生ス依テ七月
ヨリ殘暑ノ候ニ至ル迄一七日御退ノ廿ヲ故

ナルヲモ井ノ為ニ善ク行フ心掛専ラ要使
久我家ヨリ御医ヲ出ス事此事未ダ其ノ前
度ノ四度ト名付テ十二ヶ度ヲ早勾當ト云
箇度ヲ検校ト称シ極官トスル則聲聞乗
性ノ和歸ヲ観行ノ表事ナリトモキケリ

八十井

山城國宗鳥先中ノ云ヲ井アリ
古倉施薬院醫員正和ノ元家ノ内大ヲ成ル井

大同醫式

醫官不許使家従直得異邦之藥種
醫官毎朝寅獨考自脈知日気而后參仕
君上御脳之間雖経数年醫官不許房中之事
前七日之間内有穢事者偽而參仕則解醫官
療女官等直不許閇病根醫官雖三二粒有

典藥寮施行

病事時不着紫之濃袍
御腦之時選醫而令
則雖夜中可申之不可
醫官之家恣不許居遠所
分量以類聚方可為
本朝之令量者宛罪
上御藥大同方某卷某散令按以異邦某書
之說加某之藥由可註進以異邦醫書不可
本方先書
本朝之書而異邦之書可附令按之由御腦之時

禁酒
醫官之法式專可用去年之勅式
御腦急時不應　名者雖官名醫官令問天文
及易不覺悟者五位以上二階六位以下二十年
不叙爵　醫官亦可握蘭
醫官一可忌佛事逢僧尼之日不參仕
醫官某嗜文學一可學達陰陽之理
醫官禁淺酒
右奉　勅令天下

大同三年五月日

石一巻以宮李寫畢

治承元年七月一日

典薬頭 名兼刊

短冊外箋寸法

幅二寸 長サ一尺二寸六分外箋竪ヲ二ツ折横ヲ五ツ折

一ツ折ル工藤之助日ク横六分ノ一ニテモ七分ノ一ニテモ折ル

本朝家紋

李部紋ハ桓武朝唐山ヨリ始テ家毎ニ

セリ其ヨリ各家ニ紋ヲ設ケ

御衣ニツケラルヨリ御役ヲ勤ル後庶

人モ各自ノ好ム所ノ

丁始ルトヤ

亮九新選

の事其のち

薄誌ヲ度刻

陽誌。劉理丁

午歳掃紀移

ウスモチ モチ

アイスクリーム

コタツ

ユキダルマ

スキー

スケート

ソリ

ユキガッセン

ユキアソビ

ユキ

ユキ

ユキ

周禮諸臆等三十四箇
半肩牢肩牢殺肉喜
肆體牢禮全烹牲
切肉也
○牡羊肉羶養生
手足觸肩之所倚足之所履膝
跨脏名無繩約
○龍氏成公八年
體者不復
敬旅音
亞離騷經難體解並
心之可徵
味旨蘭

文安来
合以深林安無
無不開解盡理之
牛理又音節
乃中經
言其因
便艳
著牡羊
逸曰已
知解
志猶不
雖蕃
熟洛荷

池北偶談 巻廿四 虞初雑説 明皇射鹿取血
並酔踢哥舒翰及安祿山詈之事略同
祿山帳下健兒名戴落洞恐因字音相
近而傳會其説 今嶺魯間以落葵作
鬠麥線名河洛俚名亦舛
一 荅甚多 玲瓏碪 今
海中亦或有水多
入水甚久又色不變 和蘭ニスポン

ニスポンヌスポンスト云フモノヒヨリ横濱記ニ
出本所ノ玲瓏碪ニ曾焼卿ノ説アリ 夏朴
顔師古史海意就篇百卉一名夏度
一名赤朴 兎木皮夏朴 故以夏朴為名
又蘇逐 和産看青朴 朴轍耕錄蘚譜淡伯圖

唐宋之際ノ三鉄公合並ニ前漢貨泉ノ古人ノ尺考
計ルニ七分許

從軍行

霜滿軍營秋氣清　數行過鴈月三更
越城曲併得濃別意　應莫家鄉思遠征

醉後書贈

一醉後當歸路晩　笛鏡門政平
馬止少年過世平　自憐書劍老殘軀
大所叔未遂志　今

羅山伊達譜作身上音年来脫時

四十年前此壯時　功名聊復自論期
老来不識干戈事　只把春風桃李巵

昔日高門有大賓　高名多是五侯親
今來座上誰能識　疇昔羊公一鶴軒

桂林八樹

桂林八樹在蒼梧　葉落花開四五株
一自清香傳海外　至今明月滿江湖

[illegible]

好一朵茉莉花滿園的花開實不過
我情緣不出門那對著那鮮花
好一朵茉莉花有潮的一日落在我的家
他本待要摘一朵帶又恐怕栽花人
來罵呵、
八月桂花香九月菊花黃勾引着
張生跳過粉墻好一箇崔鶯鶯
花喇喇門閂兒

奴(ヌー)世(シー)沒(モー)奈(ナイ)何(ホー)。先(シエン)脫(トー)着(ジヤ)羅(ロー)裙(チュン)。後(ヘウト)晚(ワン)綉(シウ)鞋(ヘー)。這(ヂーズー)纔(ツアイ)是(シー)為(ウエイ)情(ツイン)人(レン)、奴(ヌー)把(パー)的(テ)何(ホー)來(ライ)兒(ル)昌(ツアン)呵(ア)、誰(シエイ)叫(キヤウ)你(尼)來(ライ)瞧(ツアオ)。瞧(ツアオ)來(ライ)瞧(ツアオ)去(キユイ)。丈(チヤン)夫(フー)知(チー)道(タウ)了(リヤウ)。小(ショウ)情(ツイン)歌(コー)。刀(タウ)要(ヤウ)死(スー)。小(シヤウ)娘(ニヤン)子(ヅ)難(ナン)揉(ロウ)。兒(ル)吊(ヂアウ)呵(ア)、

紗(ショー)羅(ロー)長(チヤン)衫(サン)可(コー)體(ティー)裁(ツアイ)。
洗(シー)的(テ)乾(カン)淨(ヂン)又(ヨウ)時(シー)興(シン)。
穿(チユエン)在(ツアイ)身(シン)上(シヤン)凉(リヤン)快(コワイ)。
脫(トー)下(シヤ)來(ライ)疊(ティエ)得(テ)平(ピン)。

犀(シー)牙(ヤー)
指(ヂー)物(ウー)是(シー)人(レン)名(ミン)入(ジユ)工(コン)喝(ホー)蘭(ラン)醫(イー)與(イー)般(パン)亜(ヤー)爾(ル)諾(ヌオ)兒

篤(トー)斯(スー)安(アン)爾(ル)之(チー)所(スオ)帶(タイ)来(ライ)即(ヂー)筆(ビー)和(ホー)蘭(ラン)之(チー)初(チユ)字(ツー)
曰(ヨー)利(リー)語(ユイ)沒(メイ)魯(ルー)勿(ウー)曰(ヨー)利(リー)語(ユイ)也(イエ)魯(ルー)勿(ウー)者(ヂー)
筆(ビー)也(イエ)毋(ウー)多(トー)者(ヂー)蘭(ラン)也(イエ)多(トー)者(ヂー)筆(ビー)也(イエ)從(ツオン)事(スー)於(ユイ)筆(ビー)
蘭(ラン)爾(ル)萬(ワン)事(スー)無(ウー)私(スー)皆(ケー)能(ノン)語(ユイ)曰(ヨー)於(ユイ)讀(トー)
官(クワン)話(ホワ)譯(イー)官(クワン)皆(ケー)業(イエ)此(ツー)語(ユイ)曰(ヨー)夫(フー)斯(スー)篤(トー)都(トー)兒
也(イエ)者(ヂー)近(キン)来(ライ)入(ジユ)貢(コン)之(チー)中(チヨン)最(ツエイ)為(ウエイ)通(トン)士(スー)天(テン)資
英(イン)邁(マイ)敏(ミン)捷(ツエ)精(ツイン)于(ユイ)術(スー)業(イエ)以(イー)為(ウエイ)志(ツー)於(ユイ)語(ユイ)額
横(ホン)故(クー)訳(イー)家(キヤ)次(ツー)此(ツー)都(トー)所(スオ)著(ヂユ)未(ウエイ)暇(シヤ)筆(ビー)

主其家而薬物旭集次贈焉惟是恢志
又達敬之名修服其它追載君甚為余謀
亢之余周驚其所藏書并未知次應焉
則彼轉贈諸斯宇都児並語余事也物
收崔卿之餘譚次此物令譯官致其
謝意蓋崔之為国為斯亦無從来
朝之如其国平別表首有載之者其
為至珍奇知余之豈可不称
喜哉之物也雖彼五蔵所未曾多得
為故其所帯来止有両枚其一管牙
者即余所得即之一其
則両牙連属者誠国宝稀物索
之也其一隣得之陰贈之而去餘則之属
蔵之而無為徴其会諸君
子北観物類相保列以備富国
其明快之意仙臺陰擇英親茂質識

水牛

鵝荷蘭呼曰勒亞爾多產亞細亞剛幹其形貌
木牛稍能漢人不詳說止知其角戰鬥多資諸百
蓋
曰若王之用項者荷蘭譯官某久其乾肉贈余云
土人即古所謂臧獲也象觀之審若柔順
牡小而
人即古所謂臧獲也象觀之審若柔順
詰亞未曾有得見者據
亦曾輯譯如斯觀之與牛也或曰漢人之不記載
踐固宜其然歟

[illegible] 人無由知若此君豈如漢甘蘭籠所圖
畫與夫說列子閻奉及其所圖有異
之如夫物性土治風異于別書故不啻于此
西鑒劃墨兒曰北物產蜀牛種形狀全類牛
軀北牛高大頭小頸大常偃頭負長而黑
首斜彎文額前有
角刺毫金毳色黑蹄短亞細亞剛中諸國邏
無毛如瓦皮甚堅脚
羅漪泥鴻及西鑒
入余瑪泥亞尼勒

商ヒ亜或阿ノ各國ニ派遣シ其所在ヲ探
索セシメ又清水ノ各中ニ多ク蓄息スル
常ニ細水邊ニ遊ヒ其人ヲ螫刺スル動物
ノ事ヲ偵知セシメ其ノ事ヲ以テ之ヲ
施設スルニ至ラハ不日ニ其ノ目的ヲ
達スヘシ不悉
伏乞不宣動靜隨時奮任剛毋負使其
趣旨當是ヲ祈唯冀ハ一日ノ速ナラン
コトヲ

右ノ二品天明戊申五月ボニン踏勘ノ
時固ト約スル所ノ如シ然ルニ当ス
ル所遺忘備ス

七種歌

ソンマーンビッスウヒスドンデイル又ハ
フルサヒルコヲ七種

春草堂先生錄

春草集

六文雪ノ峰月元草堂
角先生ハリカメ笠内

刀圭　又甘蔓言ノ文

一錢ヒ

唐音ニテ「ビホイ」ナリ 此方ニテモレッキイハコノ類ノ声ノ

西施舌 南産ナリ 蛤ノ類

四足魚 物理小識

水木犀 一名指甲 羅甸イスペリコ 和蘭ヒントヤンスコライト

群芳譜柱前錄曰水木犀一名指甲枝軟葉細

五六月開花細而色黄頗類木樨中須有的香

絶佳二月内分種栽配植西番頗稀

清賞揚葉加糞名漆指紅過鳳仙

潜確類書引草木狀有花名指甲胡人食太

秦國移植南海五六月開花細而正黄頗類木

犀中多須有的香亦絶佳葉可染指甲其

旧過于鳳仙故名

蕃薯堂日昇蓮草釋名水蓮翹
舶来物ヲ見ルニ大葉ノオトギリ竹ノ如シ

Aries 白羊 春分
Taurus 金牛 穀雨
Gemini 陰陽 小滿
Cancer 巨蟹 夏至
Leo 獅子 大暑
Virgo 處女 處暑
Libra 天秤 秋分
Scorpius 磨羯 霜降
Sagitarius 人馬 小雪
Capricornus 摩羯 冬至
Aquarius 寶瓶 大寒
Pisces 雙魚 雨水

右在赤道次北者

右在赤道次南者

十二宮曰

七政回廻引數圖雜記曰

回回教祖之詩

嗚哈木德 回回教祖 北亜國

僧言佛子在西空 道說蓬萊在海東
惟有飛昇真實事 眼前無日不春風

小木ノ子

公西家山界世外ノ仙 其山間ニ木ノ子神ノ宮多隔テ住ル者

春風と侘さす叡山花多き時の雪詠を
ほころびぬ梢もあるか山桜
月も宮こもうめの本の雪の朝
今つ世も幻き託人羽子ポルスカ云ふ羽子ポルスカ
山ポルスカ自鳴鐘 十七百五十六年
ゼ子(杜松子)ル(橙汁)ラ酒 サリムシ(橙汁)サ砂糖 水 右四味
諸金軽重 長側 量容全書(多)

一 金 瀕(ニッケ)鉛 銀 銅 鉄 鎔 蜜 氷 蠟

一 錫 仕 様 八分

八分即楷次中所無書
王次中始以古書方廣少波勢建初中次隷昏
作楷字法方八分言其
極 右出書史千字文 陸立誠君鱗 田嶋右内

書斷曰八分者秦羽人上谷
味 蘭 語 阿 弗
數 サルポ ヒホウト ヒヤムス 一番 蕊 彷
ビマース 二番 蕊 彷

カツ共ニバサトリス　三番　芭析　パツタ子ツ也　更級

姑几　盆墓ナリ　京摂ノ間ヲ叶サレト云ッ唐音

テンクイ又　托盆　姑几ハアウレ反　姑朱說

記里程也未知當否或引說是數事多見也

詩林廣記中ニ辛番略圖　當初　校校記單

墓ダルメ　オレイタスコトリ　陳藺籬先生體解未詳或引投水中

一莊藻渭尺牘　報劉　都督　書面ノ中ニコノ字

アリ　註右解レカタキ処ノ口クレ井ニ　ヲ投ケ里数ヲ記スル　四キリ

校ヲ投ケ里数ヲ記スル四キリ　舟ヨリ海上ヘ　緪ヲ付ケ

郭中衛國字解曰未詳　互更　針

ユレハツナリ本ノ石　パラ五札　茅ノ

七葉樹

ユソカフトチノキ　留春日　札出ル

榕　菩薩樹　垂手陽礼拝　根樹

刺伊私

外貌印象無異有一奇木其幹不
花而實大不可食其枝亂垂下垂附地便生
根若柱如漫蔵又結成巨林國人採葉作無異
屋宇至有客千人者其樹之中近邊軒窗勿則必
供備名菩薩樹木
○月池譯文曰垂一爾波女禮拜刺伊私又名根
樹其初生不異于他樹後枝上生細條亂垂
落下垂及地則生根久而成大株無子有幹
異如斯無數連結成巨林其高參天枝葉
陰ゝ有周圍及意大里垂之一里者其枝
條亦各出細根纏ゝ垂地近望之殆如數繩
索掛樹枝者 實亦簇生櫟樹
○南京草木狀曰榕樹南海桂林多植之葉
如木麻實如冬青樹幹似桂林而又茂細軟條如藤垂下漸
ゝ及地藤稍入地便生根節或一大株有根

四五處而橫枝及鄰樹即連理者今俗為常
不謂之瑞木

○柱海虞衡云曰榕易生之木又易高大可
覆數畝者甚多根出幹而次第生他木
榕木倒生根々語會鳥銜艸子實生他木
上便蔚茂下至地得土氣久則過其所寄
○泉南雜志曰衛西榕樹 天蚕絲

○Laad トイフナリ 又ラクトモ
播音テンサンスウ也此方ニテヲグストヲ其轉
聲ナルベシ羅甸語ニテ Augustus 和蘭呼テ
筑前太宰府ノ邊ニテ古銭數百ヲ堀出セリ其内
五銖錢ノ量ヲ見ルニ凡一分五厘アリ然ハ漢ノ一銖
壹分七釐半ナリト 歌具

五銖錢

東西洋考ニ椰子ヲ一名一哥貝ト云ヒ唐音ニボイヒトリ重石ヲ左ヲメヨキンコトヲ云ノ音譯ナルベシ此方ニテ訛称文鄰(ブンリン)神(シン)文鄰(ブンリン)神ハバンヤヲ云ヒトリ遥問(ヅモン)ナリ契丹(キタイヤー)ヲ國難地ニテ倶天笠諸島ノ内ナリ罰賓(撒馬兒罕)西域記漢時東洋(トンヨウ)病詩鞮(シテイ)咬噌吧(カヲルヤカタラ)

唐山人日本ノ地ヲ呼ンテ蛮(バン)ト云ヒ食事ヲスル故ナラン彼(カノ)咩(メ)ヲ東洋病

鯨

紀列和哥山抱屋姿ヲ鯨(ゲイ)ト曰鯨(ゲイ)座(ザ)浦元ト取ル所ナリ鯨品十四條アリ

座頭クジラ(セトウクジラ)ナイサギ(ナガスクジラ)ゴトウ(ザトウクジラ)サカマタ(セミクジラ)マツコクジラ(コクジラ)附錄イワシ

名ノ「ヒ」ト此余肥前平戸領イキツキ嶋等ニテハ鯨ヲ
ヨブニ鯨ヲ以テスル故ナリ土人ハ鯨ヲ小石丸ト云
漁父キケリ其漁ニ七十里先キニテ船ヲ出シ
ツヽシニ鯨ヲ見ツケ其ノ鯨ノ方ヘ船ヲ漕ヨセ
トモハ此ノ鯨ヲ取リ海ヲ出ルモノト思リトイヘ
アルイハ二「グル中ヲモ」ト云ヒ或ハ数日ヲモ
経テ死ス此ヲ云フヒキリ錫ト
称ス

恵直堂経験方ニ図ヲ出ス

一名アルコピウキ」リ

草今案腎虚腰中如鐵石腑中水出諸痿倦怠
難思撥掃不盡用蒼朮濃煎浴之仍以蒼朮末
入歳新香少許水調服夏至後採陰乾本細
蒼朮倍

海桐皮

霜降後採ル好ナル者芽ヲ去テ用ユ故ニツヤヤカ

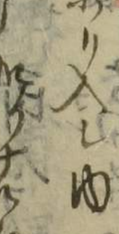
[illegible]葉者[illegible]和[illegible]肥前[illegible]
[illegible]正月十五日[illegible]松[illegible]
[illegible]歟[illegible]知[illegible]敬[illegible]奥列[illegible]摘[illegible]間松[illegible]
[illegible]対列[illegible]
[illegible]東坡[illegible]
[illegible]天文[illegible]年[illegible]未[illegible]
[illegible]内[illegible]
[illegible]

此旨全部[illegible]
[illegible]備[illegible]
[illegible]
[illegible]

古端硯堂ト刻ス

右金文ハ茂質作ル所ニシテ東江澤雨文政癸酉東都初テ刻ス和名ヲ以テ題ス

端溪ノ老坑ヲ和名石ヨリ出ス四寸六分横三寸方表ノ墨池ノ上蓬萊宮ト篆書ス文字ア[illegible]墨池ニ寸罫ヲ引キ其深サ一寸八九分廻リ一ツノ角ニ陷ヲ別ニ作ル



文辭雲林ア[illegible]其ノ図ハ玄龍龜馬魚ヲ彫刻ス裏面ハ溪ヲ彫リ入レ山如碑形ヲ作リ其ノ龜ヲ其砌ノ上ニ置キ其ノ甲ニ銘ヲ彫リ廻リハ波浪ノ形ヲ彫リ其下ニ行ク千夫挽綆百夫運斤算次ヲ題ス

下鎚巧得其期珍ヲ彫ル

東江希代ノ和篆ヲ以テ右後ヲ記ス

[illegible]日ヲ[illegible]ヨリ大同ノ[illegible]ヨリイヨイヨ東服ノ遺物ヲ[illegible]

東江先生義和ヲ[illegible]ヲ知ベキ文衡ノ二ツト三ツマデハ此硯ニ勝ル[illegible]

杉田の梅の頃を詠める歌

梅の花匂ふ春べは折ゐ聞く鶯の声

朔平蔵の将軍家へ参賀の時

世の縁持つ細流至二十余年二度の拝

疏屬来賀辞を述ぶる

拝賜羅幣頂戴

御賀の祝の歌

徹翁記云足利時代ノ優婆塞形ノ者ヲ云ヒ徹翁ニ於テ云フ

中ごろなる御事なども

ありつるを

杉田の梅

踏み分けて訪ふ人もなき山里の

梅こそ昔忘れ顔なれ

杉田の元

春ごとに匂ひ増さるは梅の花

散りて後こそ名は惜しまるれ

杉田の梅

我が宿の梅の花咲く春ごとに

千代も経ぬべき心地こそす

客坐私祝

[illegal]
[illegal]
[illegal]

宮廷競相延聘善能歌纖巧甘換
舞袖坊中教新曲但向三條絃上寫
文姬又何知胡笳意恩深何風氣大雅一壞中華
雪冤當樂在此時王假門前棄鄭馳父
母搏棄母目飲未驅教女學歌兒世人
爭尚隨聲貴宮樣衛妝時世粧男如

俳優女如妓薄德但童男衣當衣服風
靡四方隋書二十載沈沒政中不知改不但悦
驰皆手障男除女奔何故眾君不
魯國君相愛女樂宣尼拂衣去未還何
使陰陽燮理權移在女兒手口問我聞
寛永法度中首棒佚遊勵士風又聞享
保新政際嚴放節儉聲慶花爾慶雪兒
之幾雖可嗟其如億兆人心何

蜀道難

李白

噫嘻嶮乎高哉蜀道之難難於上青天
蠶叢及魚鳧開國何茫然爾來四萬
八千歲不與秦塞通人烟西當太白有
鳥道可以横絶峨眉山顛地崩山摧壯
士死然後天梯石棧相鉤連上有六龍回
日之高標下有衝波逆折之回川黄鶴云飛
尚不能過猨猱欲度愁攀援青泥何
盤盤百步九折縈巖巒扪參歷井仰
脅息以手撫膺坐長嘆問君西遊何
時還畏途巉岩不可攀但見悲鳥號
古木雄飛雌鳴繞林間又聞子規啼
夜月愁空山蜀道之難難於上青
天使人聽此凋朱顔連峰去天不盈尺
枯松倒掛倚絶壁飛湍瀑流争喧
豗砯崖轉石萬壑雷其險也如此嗟
爾遠道之人胡為乎来哉劍閣峥

峯旬山雀嵐一夫西田園蒿夫無開所守或
牀親化為狼與豺朝避猶虎夕避老
蛇磨牙吮血殺人如麻錦城雖云樂
不如早還家家有萬金通商之難豹於上春
天衢身而西望長沒咨嗟

揄

通梅揄音臞折也推也又摺也次故布摺方
遺而蒼胸上也外甚天行病發汗揄湯方

煽峯逢

麥朱ノ苧ノ灼ノ方ハゼルコトナリ異花上ニカケリ

流水夜容

生不怖京兆尹死不恥屠羅王

碪月聊ノ同ト文リタルモノアリトカヲ

日本玉穀高

武用辭勝曰予初午前八刀廿字當日八若
自名苧廿五年完課役之
古郡名ても石ノ地ノ郡ノ
ちの百ノ百敷九千四百

或云日本惣勘行高大同秀吉ノ年号文禄
千八百三十七年四百廿二石也　神祖ノ時慶
三百九千余石　四百二千石也　台徳公ノ時
二千四百十七石ト云フ

陶嘗公悪臭

陳ヌル入テ水シカヘテ山セハ臭気除ル

西山相記　張君陽　崔鶯鶯

待月西廂下　迎風戸半開　隔墻花影動　疑是玉人来

風弄竹聲全似珮　月移花影欲上欄

梁簡文

歩ブ出南門城門」望陽陰里中　有三墳塁(フン)(ルイ)的(テキ)正相(ソウ)那(ナ)侯(コウ)　問(モン)是誰家冢(チョウ)　田疆(キョウ)古冶氏(ヤセイ)乃能(ノウ)刹(サツ)南山(ザン)文能絶地理(リ)

一朝被謀相國齊景公自敬言
貌有正否心有善淫既次鑑貌亦次
鑑心
鏡能照形不能照心
千利休新命遺偈
人生七十力圍稀吐し吾這寶劍祖
佛共殺

陸奥秋田男女
天明八年改

江都町數人別
町数
家数
人数
百軒以上
百軒以下
百軒以上
百軒以下

和二
一千八百四十四人 此頭一百九十四家
一十七万九百六十人 此一千九百六十家人 称之
一千九百六十家 此一千九百六十人 男 六百六人 女
四八万九百六十人 此一千九百六十人 女
和二千九百六十人 此一千九百六十人 女
総計一百九十四家 此六万八千八十人 集
今在 未帰 人数 備作民之国分寺 経

事

○大明封平秀吉於日本國王書

皇帝勅諭日本國王平秀吉

朕茶承

天命君臨萬邦豈獨又安中華將使薄海
內外日月照臨之地罔不樂生而後心始
慊也爾日本一平秀吉比稱爲
夫朝鮮我天朝二百年恪守職貢之
國也告
朕意遣爾將
次救之救伐攻張原非
朕意遣爾

達
豊臣行長遣使藤原如安来具陳秉之由本為乞封天朝求朝鮮轉達而朝鮮
隣越聲教不肯為通輒爾觸冒以煩天
兵既悔禍矣今是還朝鮮王京送同朝
鮮王子陪臣恭具表文仍申前請経略
諸臣前後為爾轉奏而爾衆復已朝
鮮之晋州情屬反覆朕遂勅諭
若朝鮮國王李昭為爾代請又奏
釜山倭衆経年無諱專俟封使具

朕
茶謹朕故特敕藤原如安来京
令文武群臣會集朝廷譯審始末
并訂原約三事自今釜山倭衆盡
數退回不敢復留一人既封之後
不敢別求貢市以啓事端不敢再
犯朝鮮以失鄰好披露情實果
爾恭誠昱推心不疑嘉與為善
回勅原差遊擊沈惟敬前去釜山
宣諭爾衆盡數帰國特遣後軍都

督府僉事李宗城
為正使王軍營右副將在軍都
督府署都督僉事楊方亨為副
使持節封爾平秀吉為日
本國王錫以金印加以冠服陪
臣以下亦各量授官職用溥恩
賚仍詔告爾國人俾奉爾歸命
世世居爾土世統爾民
蓋自我
成祖文皇帝錫封爾國迄今再封可謂
曠世之盛典矣自封以後爾其
恪奉王約永保藩邦義睦諸國附近夷衆
天朝以信義相交毋令生事于沿海加
害人民爾其欽承朕命欽此
萬曆二十六年四月 日
欽差正使王軍營右副將在軍都督僉事李宗城
欽差副使楊方亨為副
欽差封爾平秀吉為日本國王
欽此

奉
天承運皇帝勅諭日本國王平秀吉
朕惟天地之大德曰生
聖人之大寶曰位
故
天心者也至于貢獻

邊海將吏惟知戰守風濤出送
玉石難分效順既堅朕豈責報
一切免行得俾絶後釁遵守朕
命勿得有違
天鑒孔嚴王章有赫欽哉故諭
須賜
國王
紗帽一頂 展角全
金箱犀角帶一條

常服四襲一套
大紅織金胸背麒麟補子一件
青褡褸一件 素白中單一件
皮弁冠一副
七旒皂縐紗皮弁冠一頂 旒球全事件全
五章綃地紗皮弁服一套 玉圭一枝袋全
大紅素皮弁服一件 素色素前後裳一件
繡色素蔽膝一件 玉鉤全
紅白素大帶一條 大紅素紵絲夾褲一雙 襪全

繡色妝花錦綬一件 金鉤玉环蓋全

丹礬紅平羅 銷金來包 欵四條

紵絲二疋 青素一疋

星繧花一疋 溶青素一疋

羅二疋

黒綠(モヘギ) 一疋

白綾綠布十疋

萬曆二十二年正月二十一日

龍文

マワリカクノ如シ

黄色紙 横七尺五寸 竪一尺九寸 百子如意七紙三面

葉置貼四邊雲龍紋印板也寶印

朱色鮮明

萬曆二十二年正月二十一日

原本在于肥前蓮池族成富家

蟠龍元徳ヨリカリウス摸写ノ本同家并ニ立花勝杉田等ノ家ニアリ

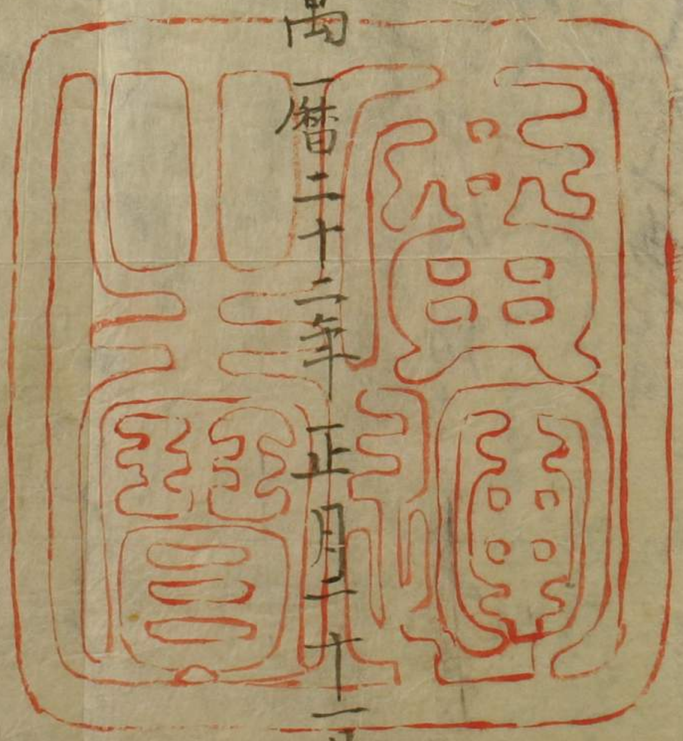
雲紋

雲紋

龍文

ミウリカク如シ

萬曆二十二年正月二十一日



萬曆二十二年正月二十一日

黄色紙　横七尺五寸　竪一尺九寸　石子如意先紙

葉畳貼四邊雲龍紋印板也寶徳

朱色鮮明

原本存在

肥前蓮池

成富家

装書之紙

カリウツス

ノ本同寸

工藤杉

家ニアリ

羅紗墨綠一疋　青素一疋

墨綠緣布十疋

羅紗花一疋　深青素一疋

羅紗緑一疋

羅紗紅平羅　銷金夾包欲四條

紗綠二疋

丹礬紅平羅
紗綾二疋
紬袷
單羅花色一疋

茶

朝鮮王子與加藤清正書

兩王子臨海君順和君兩府夫人陪官
長溪君上洛君行護軍大將。南兵
文等自壬辰年七月廿四日被擄日本
將軍許頭清正入城相見。即加禮遇
一行下人并給衣粮種種懇至文禀
于。

關白發下到金山浦還許放還京

篷窓雨蕭々夜思滿炉烟渚一聲
瀟江曉杜鵑不知處

誠甚無恙如佛真個日本好人也
以之爲
關白殿下雄傑無比實皆異
且甚於多將降國之旅官
敢或忘修睦。海儀遂一行之人其
後甚加雜談中少有背負之意
此之情也大地鬼神共知之矣
僧好之日通書
萬曆廿六年二月初二日。

順和君一路
臨海君再
行護軍直光
南兵使一通

長淵志下

草木門

木之屬

不灰木 火浣布

太平寰宇記曰不灰木俗多織鋪子燒之成炭而不灰出昭勝列亭親見之其葉如蒲草東次為燎謂之萬年火把火浣布出蜀建昌其白如雪出於石隙

元史所謂石絨也二物不同博物者宜知之 陽井養金集二十六卷 蜀成都人

石之屬

石麻

和蘭名ステーンフラス テーン

典籍便覽曰石脈一名石麻形極細如絲可縫一刀斤生石中破石而為後織此脈縒如麻紵可次為布

按武列秩又郡產脫為不堪紡績之言伊止窓太

イモリ
蠑螈

潜確類書引投荒雑録南海有水裏名諾龍状如蜥蜴微有龍状俗云此奥欲食即出水擾石上凡水族海泳過者即跳躍自致其前因取食之有得者必以双雄者既死雌者望雌死亦然次雌雄置竹筒節間央頂竹節自通土人取為媚薬

蜥蜴 サリ和二手

盛京通志曰蜥蜴身無尾石傍澤畔有之可食

蜥蜴 徴痘秘録第二

未詳 中川淳庵曰梵語ニハンントマト云フモノアリ「ハントマハ蓮ニ似タリ乎 池曰

敬 六麻 蝦蟆釋名

藥音敬篤又音加尚書伍子之歌ハ麻韻ナリ末句ノ敬ノ字ヲ古屋晴陽ノ説ニ敬モ加ノ音アリテ麻韻ニ入ルナリト。書経ノ文尤ノ如シ

皇祖有訓ノ〻〻、不見是圖寧臨兆氓濬哲若朽索之馭六馬烏人上者太甲何不敬

爲舞水

舞水明末ノ亂ヲ避ケテ移リ栽ケ逃レシ時十四五人モ來リレトナリ其内朱之瑜ト僧心越ハ水戸ニ住心越禪師水戸ニテ祖園寺ヲ開基シ世ニ越流トイフ元賓ハ尾州ニ止ル詩文家ニテ張斐ト倡酬ノ事アリ元賓深草ノ元政ト唱酬ノ序ニ舞水ハ文集十四巻アリ先生イヘラク汎ニ子ニ舞子宙ニ起ルトイフハ才ノ〻ヒ

子テ蚤ノオキヨトニテ字寅ノ正刻ヲ少モ
違フヘカラストニハアラズトヤ文章ノ國ナレハ
カヽル類多カルヘシ此方ノ傷家アマリ文章ニ
諸解スルヲ多トオホユ又三十石室ハ三十造
ニハアラス室ヲタヽテトイフヿノヨシ哭泣踟躕
トハ云ヘ彼國哭泣ノ時ニオトリハ子ルガ礼ナリトイリ
砂陽ニ来ル商人劇場佛優ノ雫ヲ
文ニ愁嘆ノ時ハ胸ヲウチテヨドリ八子ルトイヘリ
コレニテ踟躕ノ字漁焉タリ又唐山舘

出鴻等ヲ一厨ニ
脚ヲ扎リテ生キナガラ胞枚刀ヲ
血ヲ取リ其ノ血ヲ
取カヘテ漸ク断命スルヲ見ルニ忍ビザルモノナリコレニテ
君子遠庖厨トイフヿモ氷釋シタリ我所
死シタル魚肉調理スルトハ大ニガイノヒガ又
華音家ノ説ニ
讀牛遍義理

讀ノ上ノ一二ノ和後ハアラズト如何セハ
和後ハ訓點ノ反復(上下)ノ後ノ義ニハアラズ
上ノスベリ(ナラ)ヌヘシ五遍十遍ニテハ義理通セズ
後ノ(ニ)ヨリテ隨テ書(カキ)モノハ古ヘノ純(マッサオ)青ト
ナリコレ等ノ類學者修學
除意ノカノベキナルヘシ
謄言

物理小識ニ諸謄言解リ運旋スト有リ蘭說ノ
胆汁ハ水穀ヲ消化シ其液ノ面體ヲ
運行セシムルモ謄汁ノ気ノ次テナルベシ

坪碑年代考

神龜元年ハ聖武天皇ノ年号ニテ唐玄
宗開元十二年ニアタル寶龜元年ニテ干
支ノ一周ヲ六十年トシ天平寶字ハ六年
ヨリ唐肅宗
乾元元年ニ改元ス(寶龜元年)ノ時ヨリ寶龜己酉

マデ十年ニ十八年ヨリ
西番通商
来貢ス其ヨリ西番之朱印船
杜尼兒國天文十年辛丑秋七月有
大海船一隻直至豊後國神宮浦
其所駕者二百八十人皆是其國人也
按ニ利義稙將軍後奈良院
ノ朝ヨリ天明之辛亥辛丑マデ二百四十二年
其後同十三年癸卯秋八月其人駕六
大船来其中一隻泊于多祢嶋車
見薩州僧南浦集按天明辛丑
マデ二百三十九年ヨリ
錄是而後船未不絶元亀元年庚
午春至肥前國求互市置場於彼
津(ノ)浦(ナト)ト今長崎即此自其年至
天明辛丑二百十二年皆按正親町ノ
朝足利義照ノ時ヨリ

和蘭亘帝置場於肥前国平戸慶長二年
十商ノ年始ル天明辛亥ニ至テ百八十五年
豊臣氏ノ時ヨリ置場ヲ移落實永
十八年辛巳天明辛丑マデ百四十二年ニ
歟廟ノ御時ヨリ

菊変茶

菊ハ茶ニモ変ズルモノト信平按ニ昌山
僧井戸僑信ノ牛隆家ノ老父第園ノ作リ
其タケノバサズメノビレハ苅トリノビレハヨリ香リシメリシガ
二三年ノ茶ニ変セリ

江湖

江湖風月秋高シ馬祖ハ江西ニ居シ百丈
湖南ニ住ス二僧ハ大智徹ヨリ故ニ天下
雲水俺江西湖南ニ集ルコレヨリ会ヘ
僧ノ衆會スルヲ江湖トイフトゾ

醫

樂山先生醫狂放言ニ名ハ実ノ賓ト云フテ実ノ主
ヨリテヨリ名アルモノナリ中古以来和漢トモニ多ク久
醫ト名クル実ヲ知ラズ徒ニ無用ノコヲ論シ験シナキ
術ヲナシテ醫ノ道トオモヘリ免ルヘキノ弟一ナリ
狂夫ツラ〳〵醫ト云ヲ見ルニ矢アリ殳アリ
学ヲ昏医ハ弓弩ノ矢ヲ器ニモルナリ殹(ホコ)ハ杖(ヤ)ナリ
殴キテアタルノ聲ナリトアリ
殴(殹)ハ殴キ也殴ハ杖(ホコ)ナリ
此等ヲ考フレハ殹ノ字ハ矢杖ノ類ノ兵器ト思フ

中ルヲ云ノ醫ノ病ヲ知リテ治術ヲナス事ト思フ如リ
適中スルヿヨレニ似タレハ殹ト名ツケタルト
タリ備周ノ世ニ酒正ノ官ヲ置テ四飲トテ
四種ノ酒ヲ辨セシムルヿ周礼ニ出タリ其花ノ
殹酒トヲ漿ヲ醸ト造ルモノヲ今ノヒトヨ
サムノ類ナリコレモ其酒ニ加減宜ヲ思フ
如クノ酒トナリタレハ醫ノ業ヲ調劑シテ
病ヲ治ロスルニ似タレハ医殹ト名ツケタルナラン
ベシサレハ病ヲ治スル術ノ名トハ借リ

用ニタルヤナレハ古ハ巫醫トナラベ称メ何モ
神驗ヲ尚ヌフモノ故 類ニヨリテ巫ノ字ヲ
添ヘ醫ハ酒ノ妻ト云ヒ 古病ノ字ニ病ヲ
共ニ繋テヤマヒト訓ス 殿ノ字ニ殹ヲ
ヨクニタレ共 殿ハ声ヲ諧ル マデト思ヘルハ非ナリ
多ク酒ヲ用ユ故ニ 殷ノ
声トストアリ 酒ヲ用テ治ノ主コトハ 古者ニモ
見ヘタレ共 殿ハ声ヲ諧ルマデト思ヘルハ非ナリ

又醫書ニ醫ノ意也或ハ理ナリト云リレ共意ト
理トハ等書ニハナレガタキモノナリ 醫ノ字
ニアラズ 古人醫ト云リテ不圓云ヒ
出シタルヲ以テ 醫ノ字ヲ約メ 略言ナリト
思ヘテ 都テ醫ノ意ナリトヲ細ニアゲテ
書ニモ論シ詞ノ論ニモ云フコト、ナリタルハ
何ウヤラン正シク ウケテアタルノ声ニ句ノ
如ク應スルヲ神驗アルヲ假リ
ニモ知ラカル故ナリ 下ニ委ス

禱雨

輟畊錄卷三 往見蒙古人之禱雨者
非若方士然。至於印令旗劍符圖気
訣之類。一無所用。惟取淨水一盆。浸石
子數枚而已。其大者如雞卵。小者不等。然
後默持咒呪。將石子淘漉玩弄。如此良久。
輒有雨。豈其靜定之功已成。特假此以愚
人耳。抑果異物耶。石子名曰雞答乃
走獸腹中所產。獨牛馬者最效。恐亦
是牛黃狗寶之屬耳 相伝 相列大山称。
雨降山。其神體ハ雖答ナリ云云 馬石俗ニヘイサラバサラナリ
前文ノ故ニ云ヘイブカシ
十四日 墨田如水 觀音前 翁定書

定

一 茶碗ハ
ク 侍らぬ

十二

慶光四年
従 大御所様 御代始

一　黄門光圀公九ヶ條

名古屋山三郎の踊歌

○

鳳足硯銘 并序

夫硯者大道之筆敢澤也聖賢漁等海筌
經典騷人穉墨林端文章藉此鑑往古
儻然試来今蚩蚩莫逕一滴之餘澤
也斯研
大上天皇之舊物也蓋別所產其色凝紫溫
潤如玉長一尺許濶七寸厚一寸三分質存
天生不加琢磨名曰鳳足蓋取諸米元章
研史之語也

今上聖主常置几案之間晨夕之右
之如覩焉 御容豈在一研
嚴思在於孝耳 臣聞孝理行於上德
教加於下萬邦廡祥地方之呈靈瑞
變時天為之示嘉祥地方之呈靈瑞
左史所記右史所書布在方策功化
永垂豈啻一所謂立身行道揚名
於後世者乎哉孟子曰五十而慕者
此之謂也今茲天和二年秋天勅臣

作之銘 臣素憤子馬雅疎鉛槧不堪
紙幾汗顏操筆屢措手焉
王事無鹽戰競次銘銘曰

覽玄德光 爰上御牀 不聽歸
昌 足履文章 早 磨民墨場 致
君軒唐

湯元禎牧図
雨芦川渕を
たづねる草と

十古名言

虞詡諫と謀反

△自室嶋港唐山人之細君贈其良人
書

(四)安信一封致
這佩相公台啓
沈門侍史閨書

八月初七日佃雝堂

荷錢貼水堤柳鳴蜩遥想
相公興居時多福豊體康泰爲慰
茲啓者自別以来倏経四月有
餘家中
翁兩大人玉體全安兄庸衛念
姑
至於朝夕侍奉左右妾雖不
才自當留心其一切諸務等
自料理再
兄輩攻書固難有
先生教誨然妾亦當日久勉
廊大女弟安吉女婿今春闈
得第旁進士宴爲萬幸但妾
近聞
翁姑年衰速思焰発
使妾亦為
来信回相公在家
凡事謹慎為要

海棠名為利
郵亭在安邑
拮据無暇燈擇持
乞相
花心失書守初三思下四行
別家門五
春日景花猶

櫻繩

朱彝尊曝書亭集曰玉泉村人能
十丈施數十鉤於櫻繩之上曉起收之鉤
有魚詩十丈櫻繩夜截流朝来
漁子堂中収不知方法何從得
三寸白魚兩口鉤 按此方云長繩カ
汤云そらのもの

[illegible]

合浦處士酔後走筆

謝他悪客獨潟心芝雨服
酒一杯兵右衛門
風欲月清夜

津軽合浦処士南橋之家
仰ぐ十七字詩

國禁書目

天學初函 二十四冊 利瑪竇 畸人十編 二 十慰 西學凡 二 交友論
計開 天主實記 義二 天主續編
雜學遺牘 七克 三 幾何水法 原本四 徐平儀記
滌罪正記 彌撒祭義 泰西水法 代疑篇
表度說 三山論學記
三論学記 教要解記
唐景教碑附 聖記百言
二十五言 職方外記 靈言蠡勺
同文算指通編 二 兒義圖 圜容較義 渾蓋通憲記 句股義
測量全義 萬物真言 簡平儀記 通計三十四部

東海天地畫圖 高呂之間 胖雪

不見芙蓉高呂士詩

鳴鳳卿富士

收劍

欲知十年

十一 ビリー

七八十年前西船商人ト本ン人ト間ニ於テ用ヒラレシ
語ニシテ船ニ用ヒル物ノ名ヤ動作ヲ云ヒ又ハ自然ノ
力ニ依テ生ズル事ヲ指ス名ヤ動作ヲ云フ語ニシテ
モトヨリ船ニ於テノミ用ヒラルヽ語ニアラズ又
ビリストイフハビリ約束ノ意ニテ即チ本ン人ト
ビリスニテ約束セシ行ビリト云フ意ナリ

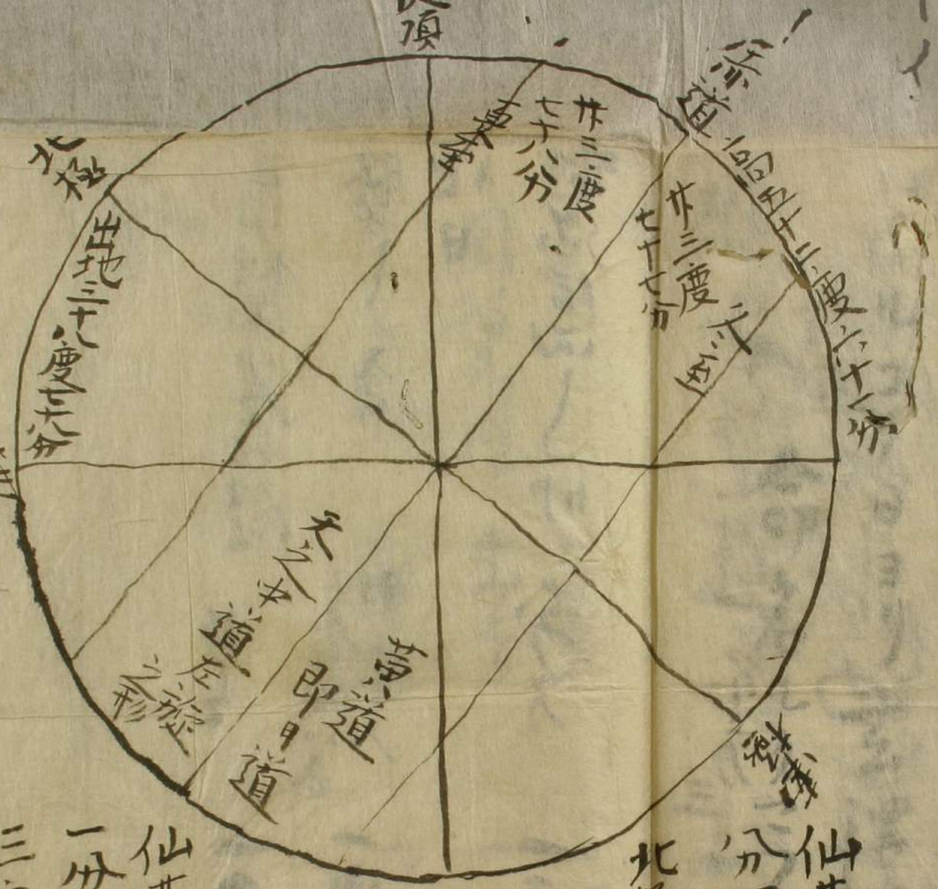
本ン人ノ船ニ乗テ語ヲ学ビ又ハ本ン人ノ船ニ
乗ル日本人(ヨリ)聞覚エシ語ヲ云フ
学ビ(マナビ)ハ本ン人(ホンジン)ニ就キ学ビ聞キ覚エシ事ヲ云フ
サシ設ケ的(マト)ノ標ノ如ク
素(モト)ヨリ素ヨリヲ云フ
番(バン)遣(ヅカヒ)的(マト)ハ那太(ナイタ)等ノ意ニテ
地ヲ見ヨ地ヲバコリ地名ヨリ等ヲ求メ
仍(ヨツ)テ件(クダン)ノ如シ

ウスモヤキ
コイモ イロ
アリふんや

文選
六朝
仁風
道化周流
銀徴九成宮銘
同
玄澤
玄澤寄流
聖恩也
玄澤之常流亟唯
幸乱豪之精
茂質八歳ノ時清蓍先生名ヲ元節ト
賜フ安永戊戌東都ノ諸侯先生ノ門ニ
入ル同庚子秋彰
先生
称呼ニ寛従ヘル伝ヘル玄澤ト改ム
令ヲ奉ケ日謝ノ日玄澤ハ我先人社
年ヲ格スル所ノ名仙城ノ玄旧先生命ス
ル所ナリ故ニ是又玄栗玄
八ヨリ父ノ名ヲ称ス云フ後ニアタリ免シ玄澤ノ
永高子不侮小人ノ文字ヲ
ズ推ス郷里ノ近キ高ク異澤ト云ヘル地
下ノ山ニノ地名ト假通也ヲメテ私ニ

跡称ノ心ニモナサヒカ高明ノ義断ヲ
希フトノイヘケレハ先生大ニ可ス因テコレヲ
亦可セラレ則疾ニ達ス矣速ニ許ス文ヒ
大人ニ命ト給フ依テ再ヒ東都ノ奈
三文館ニ告ラル本月廿五日ニ其書到
ル三日ヨリ玄澤ト称スル杉井積水
玄圃ト命名シメラル記ハ別ニアリ

儀之分同赤道
仙臺赤道之高五十二度六十
一分二七二至大陽出全ク道二十
三度七十七分三八大陽昇降
南北四十七度五十四分七六
道宿次此度数数十年来測驗迄共
古之測数不同而有廣狹於
其宿者——



二十八宿渾儀之分同赤道宿次

仙臺赤道之高五十二度六十一分二七二至大陽出全小道二十三度七十七分三八大陽昇降于南北四十七度五十四分七六

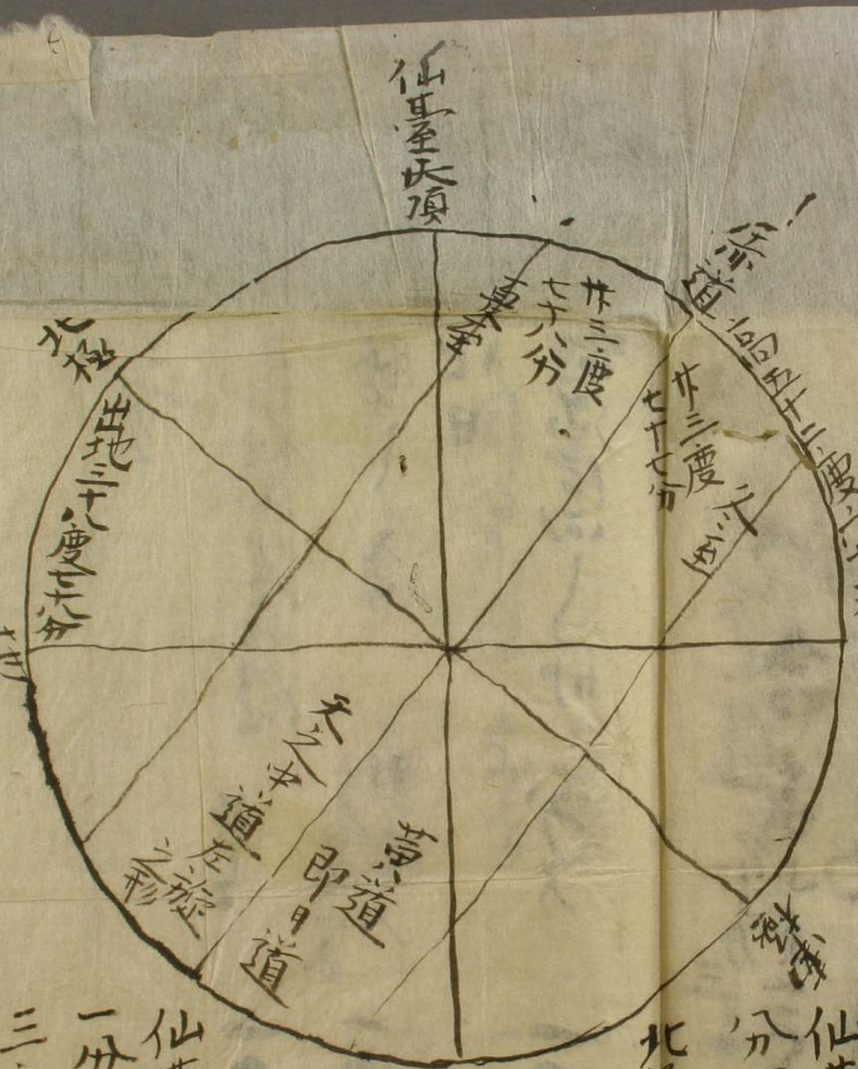
北極樞星左旋之徑四度零六分六三

乃極星高則平零度七三四七低則二十六度六八四取其中為之北極出地也

仙臺北極出地三十八度七十零分一五

道宿次此度数数十年來測驗也共古之測数不同而有廣狹於其宿者——

諸君ノ心ニモナサンカ高明ノ哉断ヲ希フトノイハケレハ先生大ニ可ス因テコレヲ卿ノ信竜先生ニ謀リ先大人ニ白ス亦可セラレ則庶達ス矣速ニ許ス旨ヲ



仙臺北極出地三十八度七十分一五

北極樞星左旋之徑四度零六分六三

乃極星高則四十零七三四七低則三十度六六四取其中度之北極出地也

仙臺赤道之高五十二度一分二七二至大陽出全赤道三度七十七分三八大陽昇秋分後十南北四十七度五十四分七

二十八宿渾儀之分同赤道宿次古之測數不同而有度者其宿者

跋

余心ニモナサヽカ高明ノ哉ヲ希フトイヘトモ、ケシハ先生大ニ可ス因テ竜先生ニ謀リ先大人ニ白シ則庶ニ達スヲ庶建ニ許ス

天明丙午正月三日崎陽唐山館菜單

白扁湯　白扁豆の砂糖煮

小菜

塩蘿蔔	大根つけ	全
糟瓜	奈良つけ	
乾蘿蔔	干大こん	
塩菜	菜つけ	

菜碗

圓魚	まつかわ	全
落花生	落花生	
冬筍	天目筍	
木耳	きくらげ	
蒜頭	にんにく	

火腿肉	金ハム	全
燕窩	つばめの巣	
青筍	竹の子	
山茹	山いも	
木耳	きくらげ	

葛粉煮くずにて

海參	いりこ	全
鴨	かも	
香菰	しいたけ	
蓮肉	はすの実	
木耳	きくらげ	

鮒魚	ふな	全
燕窩	つばめの巣	
蒜頭	にんにく	

東坡肉　豚の煮物

蒜頭　にんにく

赤道十二度〇九五四　太陰十七分六八二六　十六度八一九五
九度五九三　妻十二分六〇五七　十一度九九〇四
十六度七七六九　胃十五分五六三　十四度七六〇九
五度八五六七　昴十一分七五一八　十一度一七八二
七度三八一　畢十七分六九〇　十六度八三四二
十九度一九六五　觜〇分七三三二　空度六八七九
十〇度四三二二　参十一分三七〇三　十〇度八一五二
廿四度四三九二　井廿四分四二七　廿二度七三二六
七度七五一　鬼二分四六八　二度三四〇七
十一度三五九八　柳十三分三七九〇　十二度七二六〇
八度八一八四　星六分五八七　六度一九二〇
十五度四三一　張十八分三〇二　十七度三三〇九
八度六六二　翼十九分八四七五　十八度八七八八
軫十七分六五三　十七度七四六九

菜碗

白扁湯　白扁豆の砂糖煮

小菜

塩蘿蔔　大根つけ
糟瓜　きうりつけ
乾蘿蔔　干大こんつけ
塩菜　なつけ

全

園魚　まつたん
落花生　ぬきみ
冬筍　天目筍
木耳　きくらげ
蒜頭　にんにく

全

山茹　山いも
木耳　きくらげ

全

葛粉煮くずにたもの
海参　いりこ
鴨　あひる
香菰　椎たけ
蓮肉　はすの実
木耳　きくらげ

全

鯽魚　ふな
燕窩　つばめの巣
蒜頭　にんにく

全

東坡肉　ぶたの三枚肉煮
蒜頭　にんにく

菜碗

白扁湯

小菜

全

全

全

全

大碗
鹿筋
落花生
蒜頭

點心
紅餡
羊羹
饅頭
方餅
龍眼餅

碟児
菜碗
肉圓
鷄
竹筍
落花生

碟児
四
楊子
白菓
胡桃
蜜煮
肉桃眼
雲片糕

茂價將陽藤進學
ノ件二月三日帝ヨリ敎
ヲ加賀ニ延ラレ件ノ通
初メ玄ノ將平帝
甘露ノ間ニ博士ヲ
中ヨリ起ラシテ
ヲ以テ轉ジテ
稱ヲ修
初メ玄通ノ
ノ如クシテ
高祖ノ四大ニ毛大振ヲ久

唐山太

平
林
劉
俞
河
田
葉
熊

熊
游
陳
徐
陳

譯司名稱

長崎唐通事

大碗

鹿筋
落花生
蒜頭

點心

碟児
全 紅餅
全 羊羹
全 饅頭
全 方餅
龍眼餅

肉圓
鷄

茂賀將陽遊學
ノ日二月三日帝ヨリ敕
ヲ賜ヒ延ラレ中通
和ヲ以テ治平ヲ
静和ヲ以テ當ノ
中ヨリ
ヲ以テ
ヲ以テ
通和ヲ以テ
ヲ以テ
無ク仁ヲ以テ大ニ天下ヲ

唐通事名司譯稱

熊 神代四郎
柳 石濱次郎
劉 敬誠久三郎
樊 亀吉
陳 翼川治四郎
張 清河善吉
平 五郎兵衛
林 宮梅二郎
劉 敬齋清八郎
俞 河乃八十郎
河 河劉化十郎
田中 吉
葉 翼川四郎太
仁 吉
熊 神代七十郎
劉 敬誠吉郎

柳 柳屋新之助
岩永源之丞

崔 吉
陳 翼川八郎
熊 神代雲八郎
王 平吉
神代文四郎
游 游龍雲雲助
楊 利兵衛
陳 翼川治四郎
翼川八郎
徐 東海名之助
陳 翼川八郎

アイス

アイス（ヅケリ）ト云フ黒焼グスリヲ薩州ヨリ出ス又北越民間ニテモ多ク用ユ歩行ノ処茶ヲ舟人松前飛脚奥州ヨリ江戸ニテ椀下ニ当合散ト云フヤヲバシヤケテアイ（故人）仮名ヲツケテ中川修菴曰アイスハ善消速ニ痰ヲ治スルカイガレト（アイスケリト）云フコトアレハ好事ノ俗人イカヨウニモ工夫シテ当合ノ字イカヤウニモ梅スルニ苦シカラン

（ロテンポウズニモ貸ル家アリ方ハ金ヲ家ノ方ヘ出ス）

蔡（善井所作）

鄭（善井所作）
樊（尾張九所作）
田（岩田慶喜所作）
劉（薩摩ノ人）
鄭（故人）
盧（庶ノ誤）
劉（甕平一ノ）
陳（頼川ノ誤ノ）
阮（善ノ）
林（ノ誤ノ）
熊（神代ノ誤ノ）

田（白ノ誤ノ）
劉（甕ノ誤ノ）
林（梅ノ誤ノ）
徐（東海ノ誤ノ）
馬（中山ノ誤ノ）
劉（薩ノ誤ノ）
伍（白ノ誤ノ）
林（梅ノ誤ノ）
平（善ノ誤ノ）
平（井ノ誤ノ）
陳（頼川ノ誤ノ）
劉（甕ノ誤ノ）

（唐ノ誤ノ）
周（文ノ誤ノ）
王（白ノ誤ノ）
薛（利平）
陳（頼川ノ誤ノ）
劉（甕ノ誤ノ）
陳（善ノ誤ノ）
陳（頼川和田ノ誤ノ）
（ノ誤ノ）

蔡 ○ 井市
鄭 ○ 汚年市
樊 ○尾義九市
田 ○ 岡慶鳥
劉 ○ 鹽年鳥
鄭 ○ 敬鳥
盧 ○ 法鳥
劉 ○ 鹽年一○
陳 ○ 潮川高○法
阪 ○ 鳥
林 ○ 法
神代 ○ 鳥○
張 ○ 法○○
樊 ○尾○鳥○
陳 ○ 潮川又十市○
歐陽 ○ 鳥
歐陽 ○ 年市

田 ○ 田 ○ 市○
劉 ○ 鹽交○市
林 ○ 梅 ○ ○ 進
徐 ○ 海高十市
馬 ○ 山 ○ 四市
劉 ○ 鹽後二市
○ ○ 鳥
林 ○ 梅 ○ 七市○
平 ○ 野 ○ 市○
平 ○ 得一市
陳 ○ 潮川八十○
劉 ○ 鹽名 ○ ○
○ ○ 市○
劉 ○ 鹽大○市○
劉 ○ 鹽後十市○
嵐 ○ 家後○
阪 ○ ○ 七○

唐年行司
周 ○ 文○鳥
王 ○ ○ ○法
○ 利年
陳 ○ 潮川魚○市
劉 ○ 鹽名二市
陳 ○ ○ 鳥○
○ 長二市
○ 人

アイス（ダリ）ト云フ里焼ダリア蔭ヲ列ヨリ出ス又北越民間ニテモタタリ用角歩ノ如キ茶ヲ舟人杭ヲ担ヒ来リ価ヲ定メ一盃ニ当合散ト云フヤヲモアルヒヤケテアイス（或人ハ中川作菴曰アイスハ雪汁ヲ煮詰メ雪合ノ字イカヽト云フコトアレハ好イヘタリキ曷ソ梅スルニ若カスアヒフサイ（アイスクリート）ト云フコトアレハ好キノ俗人イカヨウニモアウベレトモ心ニ於テ当

元旦試筆　政宗

時物春未催我吟詩腸恒苦
才拙和答喜鶯新囀友音

遊子見秋

今年稽宅未歳秋入京師
見一秋物之事物事多矣
嘗欲征東無暇征東回未成功回南服
新法迎郵書欲征東回未成功回南服
時奮久待扶桑万里風
百花雪訪頭物色似別故人一首今忘不復載

合トスル字ヨシ其音ニ
取ル人倍上ヨ
ヤキダシリテ面
絶ス用ユル雁
焼テ為ス相モ
多ク東方ニテ
時ビメルベシ
雀踏モ悪

合トスアヨウ（ヨウ）ナルベシ越後ニテハ愛（アイス）ヲ氷ト書ケドモ氷ニ埴ヲメタルヲ和名アヤシ
ト云ヒ伝ヘタルヨリ誤リ而白キ方ヲ氷ト書ケリ因テ海ハ氷ニ船ヲ氷ニ
氷ヲ用ユルニ屢ク言如ク（ヨウ）ナリ
焼ヲ為ル（ヨウ）ニ
多（地）方ニテアエス（アエス）向ニ
暗ビタルベシ（ヨウ）
雀躍モシ悪ニカナ此人（ヨウ）
五十ニ満ヘメ泉（ヨウ）
越後ニテハ愛（アイス）ヲ氷ト書ケドモ氷ニ埴ヲメタルヲ和名アヤシ
ト云ヒ伝ヘタルヨリ誤リ而白キ方ヲ氷ト書ケリ因テ海ハ氷ニ船ヲ氷ニ
焼ヲ為ル（ヨウ）ニ
多（地）方ニテアエス（アエス）向ニ
暗ビタルベシ（ヨウ）
雀躍モシ悪ニカナ此人（ヨウ）
五十ニ満ヘメ泉（ヨウ）

元旦試
時物春未（ヨウ）
才拙和答（ヨウ）
越（ヨウ）
今年（ヨウ）
見（ヨウ）
賞（ヨウ）

和（ヨウ）
時（ヨウ）
百（ヨウ）
一人一首（ヨウ）

何禁（ヨウ）
在（ヨウ）
雑（ヨウ）
唱（ヨウ）
氷（ヨウ）